

椎ノ木山古墳（伊保田）

周防大島町文化財保護審議会会長 尾野榮明

この古墳は、椎ノ木山の北西に面した丘陵地の標高30メートル余りの所にある。北東部が削平された円墳の遺構である。御園生翁甫著「大島史談」によると、長径約6・3メートル、短径約6メートル、高さ約2・7メートルの円墳で、明治17年（1884）に発掘されたとある。遺構は横穴式石室で、石材には安山岩の割石が使われている。

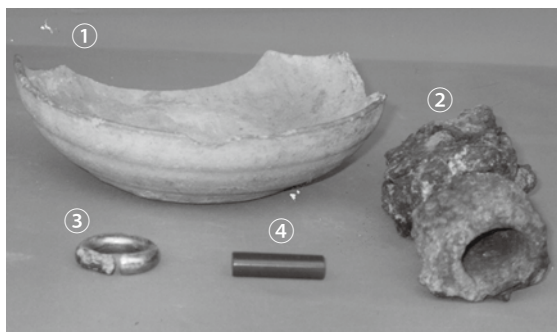
しかし、その遺構および遺物の実測図などもなく、遺物もかなり出土しているようだが、その所在は不明である。

現在、古墳所有者の俊成家に保管されている出土遺物は、管玉1、金環（耳環）1、鉄斧1、須恵器の坏蓋1である。

写真の①は、須恵器の坏蓋で灰色を呈し、指ないし布などの道具で器壁面をナデ調整している。胎土、焼成ともに良好である。②は、鉄斧で木材を削る手斧である。③は、金環（耳環）で断面円形の金

属棒を丸く曲げて、一方に切れ目のある環とした金属製の耳飾り（イヤリング）である。④は、長さ4cm余りの円筒形の管玉で、碧玉製青緑色である。この管玉および金環は豪族が首や耳などに装飾として身に付けるものである。

これらの遺構（円墳・横穴式石室）および出土遺物から、古墳時代後期（6世紀末ごろ）、有力な豪族が島末東部の集落を支配していたものと思われる。



▲椎ノ木山古墳 出土遺物

瀬戸内の多島海でアイランドホッピング！



コロナ禍でアウトドアにおけるアクティビティの関心が高まっていますが、このアクティビティとは旅行先での体を使ったさまざまな遊び体験を意味します。

周防大島でも週末のキャンプ場は毎週のように満員御礼、全周約100kmのサイクリングや瀬戸内アルプスのトレッキングやボートフィッシングなど、周防大島ならではのアクティビティが人気を博しています。

周防大島観光協会では2020年度に瀬戸内のハワイで「星に願いを」キャンペーンを開催。数百の願いごとの中から「自然豊かな周防大島をシーカヤックで一周したい」という広島県在住の吉田さんの願いごとが採択されました。

コロナ禍によって催行が叶わず1年が過ぎましたが、このたび満を持して願いを叶えるため、周防大島在住のシーカヤックガイドの方をアドバイザーとして、吉田さんには約一週間の行程で周防大島一周パドリングを楽しんでいただきます。

一日に漕ぐ距離を約20kmとして潮汐を鑑みて日程と停泊地を仮定、基本はソロで楽しんでいただき昼食などの補給や宿泊施設への送迎をアシス

トします。また大島瀬戸などの難所は伴走船が帯同し、スタート・ゴール時には観光協会スタッフがカヤックに乗って出迎える等、島民との交流を交えながらの楽しいパドリングになるよう調整中です。

穏やかな瀬戸内海はシーカヤックやスタンドアップパドルボード（SUP）などの海上アクティビティに最適であり、多島海と形容される地形は島から島へ漕ぎ進むアイランドホッピングを楽しめる稀有なフィールドです。

このように周防大島ならではのアクティビティのご提案を今後も模索していきたいと思ひます。



問い合わせ 周防大島観光協会 ☎ 0820 (72) 2134